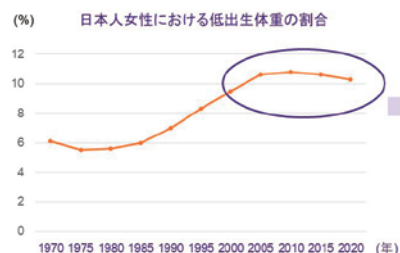


母体出生体重と妊娠高血圧症候群の発症時期の関連について

周産期医学部分野 田上 和磨

【はじめに】

出生体重は成人期以降の健康にも影響する。具体例として、低出生体重児が将来妊婦になると HDP を発症しやすい。日本では、低出生体重児の割合が高止まりしており、今後 HDP の有病率は増えると考えられる。HDP は発症時期により予後が異なり、発症時期別のリスク因子の解明が重要である。

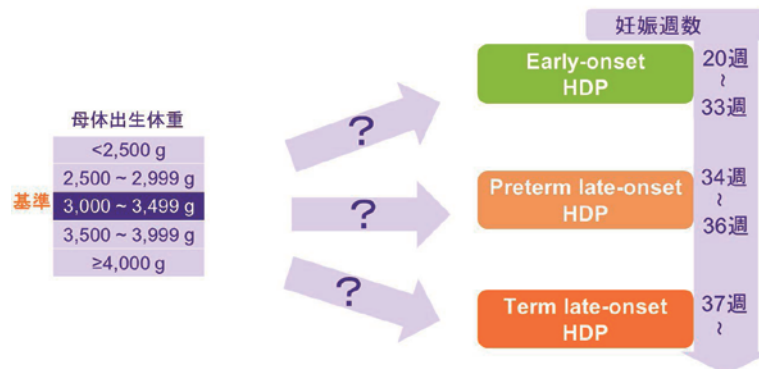


【目的/方法】

母体出生体重と発症時期で分けた HDP との関連を明らかにする。

77,345 人の妊婦を対象とした。

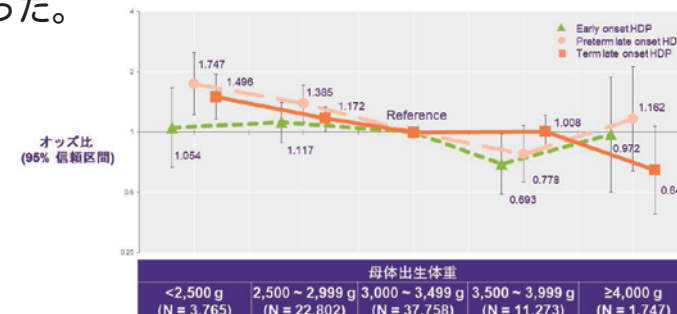
統計解析に多項ロジスティック回帰モデルを用いた。



略語説明

HDP：妊娠高血圧症候群。妊娠に伴い、血液量増加やホルモン変化等による負荷で、血圧が上がりやすくなる。血圧 140/90mmHg 以上で診断される。

【結果】母体低出生体重は遅い妊娠週数で発症する HDP との関連が強かった。



【結果のまとめ】

関連のつよさ
強い → 弱い
◎ ○ △

関連の強さ	母体出生体重				
	<2,500 g (N = 3,765)	2,500 ~ 2,999 g (N = 22,802)	3,000 ~ 3,499 g (N = 37,758)	3,500 ~ 3,999 g (N = 11,273)	≥4,000 g (N = 1,747)
Early onset HDP	△	△	基準	△	△
Preterm late onset HDP	◎	○	基準	△	△
Term late onset HDP	◎	○	基準	△	△

【考察】

過去の研究より、

Early onset HDP は胎盤の問題、preterm と term late onset HDP は生活習慣等の問題と報告されている。

低出生体重児は腎臓等の機能が潜在的に弱く、妊娠による負荷で HDP を発症しやすい可能性があると考えられる。



詳しく知りたい方は、<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37992490/>